

2020年度スポーツ庁委託事業

Special プロジェクト 2020
(特別支援学校等を活用した地域における障害者スポーツ
の拠点づくり事業) 成果報告書

2021年3月
山口県教育委員会

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、山口県教育委員会が実施した2020年度「Specialプロジェクト2020(特別支援学校等を活用した地域における障害者スポーツの拠点づくり事業)」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

1 地域が有する課題の状況

・ 地域の障害者スポーツの実施状況、応募の経緯等

平成23年度に本県で開催した山口国体・全国障害者スポーツ大会では、各特別支援学校の部活動等を強化し、全国大会での入賞や、日本代表として世界で活躍する選手を輩出するなどの成果を得ることができた。

この取組を一過性のものとさせないためにも、継続的な取組ができる体制の整備と有望な選手の発掘・育成、生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境の整備が求められている。

このため、昨年度に引き続き、国事業を活用し、学校を核としたスポーツやレクリエーション活動の一層の充実を図り、心触れ合う機会を通じて共生社会の実現に向けて障害や障害のある子どもたちへの理解を促進するとともに、障害のある子どもたちが、生涯にわたりスポーツに親しみ、学校卒業後も心豊かに生活することができるよう取組を進めている。

2 事業実施の目的、基本的事項

・ 解決すべき課題の内容

本事業を活用し、学校を核としたスポーツやレクリエーション活動の一層の充実を図り、特別支援学校の児童生徒と、近隣小中高等学校の児童生徒との交流及び共同学習を実施するなど、児童生徒同士が心触れ合う機会を通じて共生社会の実現に向けて障害や障害のある子どもたちへの理解を一層深める。

また、特別支援学校を拠点とした地域スポーツクラブの設立をめざし、障害のある子どもたちが、生涯にわたりスポーツに親しみ、学校卒業後も心豊かに生活することができるよう取組を進めるとともに、地域の障がい者スポーツ指導員等を活用し、一人ひとりに応じたきめ細かな指導の継続的に実施や交流大会の開催等により、将来有望なアスリートの発掘・育成を行う。

さらに、2021年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催にあたり、関係課や団体等との連携を図り、本県がホストタウンとなっているスペイン等大会参加国のオリンピック・パラリンピアンとの交流等により大会への機運の醸成を図るとともに、スポーツの素晴らしさを伝え、生涯にわたってスポーツに親しむ意欲の醸成を図る

・ 事業実施体制

県では、障害者スポーツ・レクリエーション推進協議会を開催し、学識経験者や関係団体との連携により、施策及び事業の円滑な推進に向けた取組を進める。

また、複数の特別支援学校を、生徒の実態に応じた競技種目を取り組む障害者地域スポーツのモデル校として指定し、障害者スポーツ指導員等の参画のもと、種目別検

討委員会を開催するなど、モデル校における活動方針や取組内容、スケジュール等の計画立案、運営を行う。

・ 県推進協議会の構成等

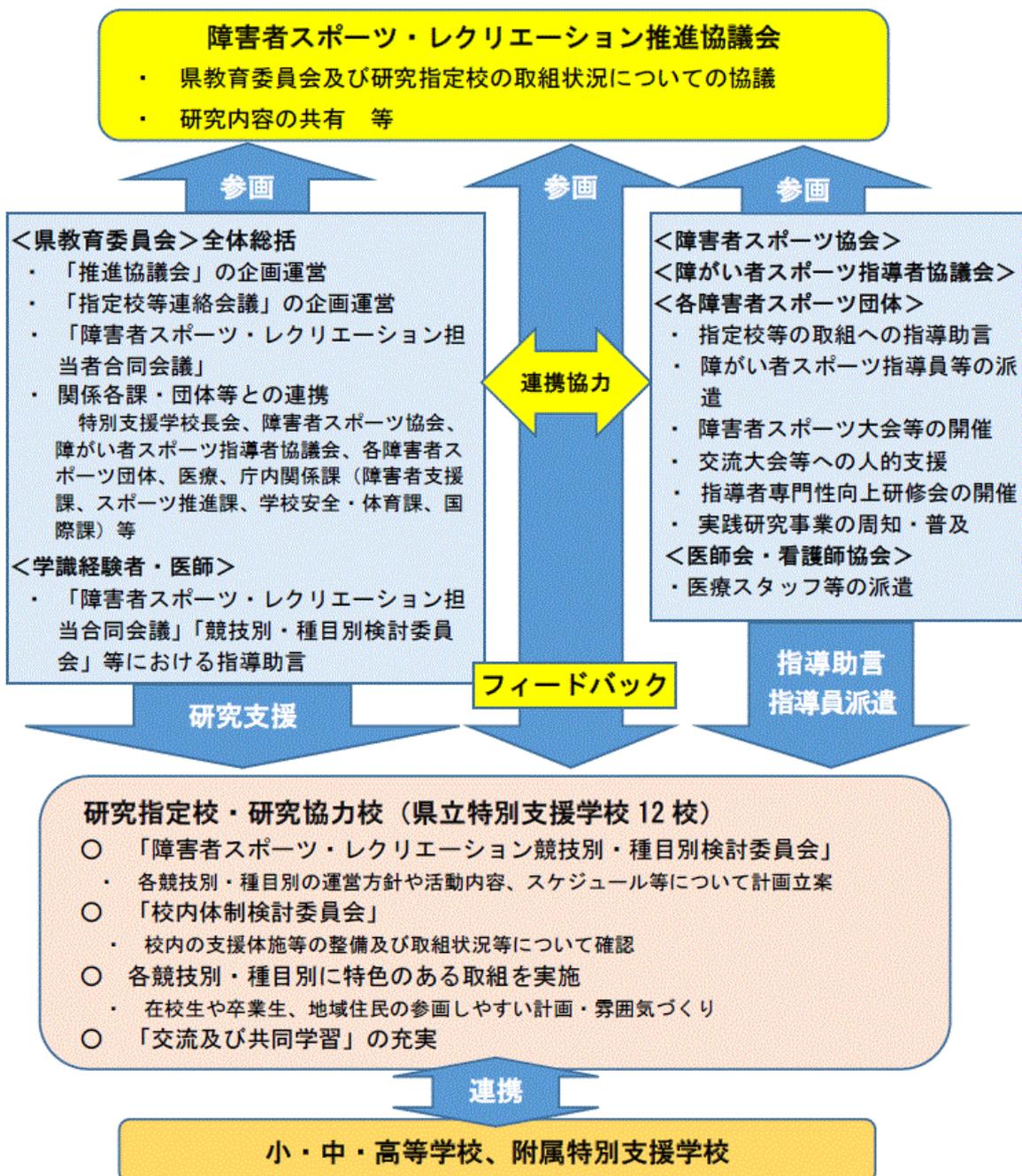
事務局：山口県教育庁特別支援教育推進室

構成：各特別支援学校長（13校）

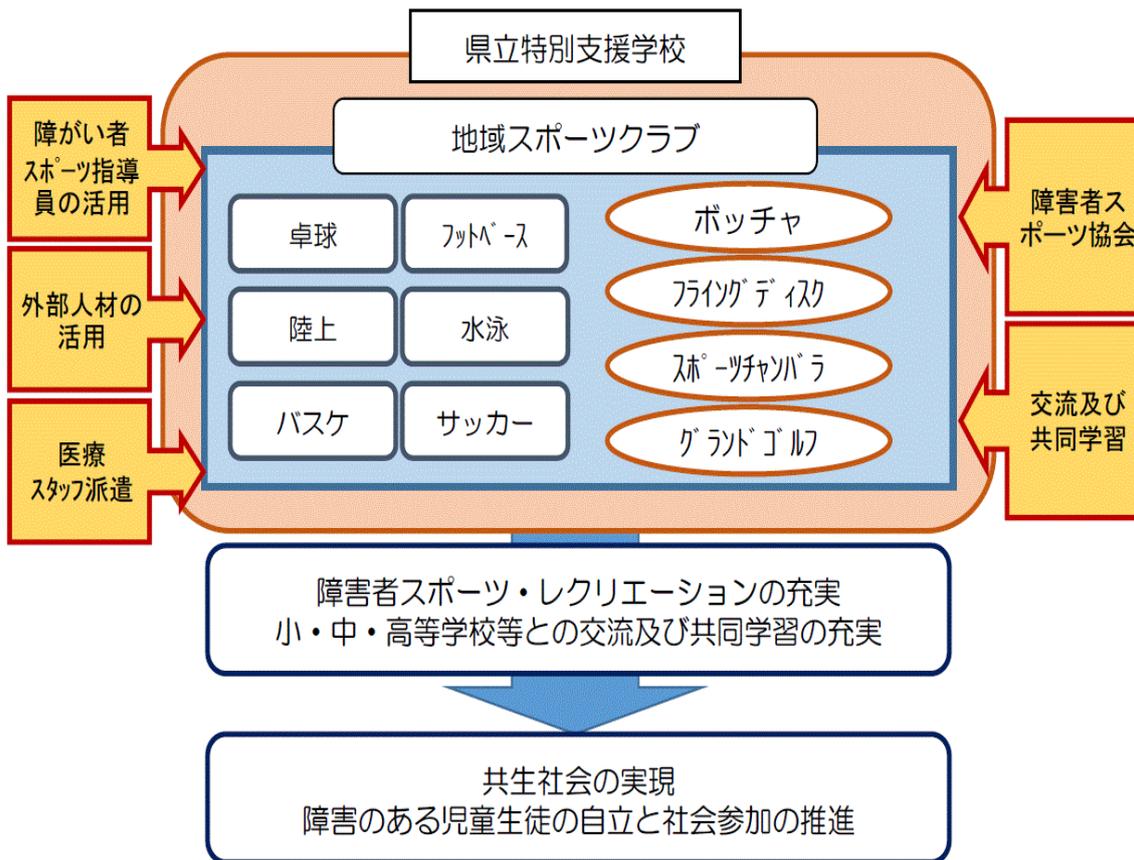
連携団体：県障害者スポーツ協会、県障がい者スポーツ指導者協議会、各障害者スポーツ団体、庁内関係課（障害者支援課、スポーツ推進課、学校安全・体育課）等

3 事業の実施体制

【運営体制】



【実施の概要】



4 実施の日程（実績）

実施時期	実施事項				備考
	(1) 推進協議会	(2) 競技・種目別 検討委員会	(3) 障害者スポーツ 指導員等の派遣	(4) パラリンピアン等 との交流	
5月		【中止】検討委員会 (全体会議・打合せ)			採択前
6月	第1回推進協議会		障害者スポーツ指導員の 派遣（陸上・バスケット ベース）		
7月		フェスティバル実行委員会			
8月		種目別検討委員会	バスケットボール交流大会		
9月			障害者陸上競技大会 2020		
10月					
11月		種目別検討委員会	FIDバスケットボール大会 知的障害者球技大会	コロナ感染症対策のため 中止	
12月					
1月		種目別検討委員会			
2月	第2回推進協議会	フェスティバル実行委員会			
3月					

実施時期	実施事項				備考
	(5) アスリート等との交流	(6) 県内外大会への参加	(7) 交流及び共同学習の実施	(8) 先進県視察及び成果報告会参加	
5月					
6月					
7月					
8月					
9月	コロナ感染症対策のため中止				
10月			コロナ感染症対策のため中止	コロナ感染症対策のため中止	
11月		コロナ感染症対策のため中止			
12月	県内スポーツ選手を活用した運動教室				
1月	地元女子ラグビーチームによるラグビー教室		特別支援教育フェスティバル		
2月				スポーツ庁成果報告会	
3月					

5 事業の概要

(1) 障害者スポーツ推進協議会（年2回実施）

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、年度当初の第1回協議会については、開催時期を延期し、学校再開後の6月に県内各特別支援学校長、事務局を中心に開催し、県の施策及び本事業の円滑な推進に向けての協議を行った。
第2回協議会については、オンラインでの開催とし、各特別支援学校長を中心に、各関係団体の参画のもと、今年度の活動報告を行うとともに、今後、コロナ禍でも持続可能な取組について協議を行った。
- ・ 5月の学校再開後、地域の感染状況を踏まえながら感染症対策を行い、各特別支援学校と関係団体との連携により、特別支援学校を中心とした地域スポーツクラブへの障害者スポーツ指導員等の派遣や交流大会等の障害者スポーツイベントの開催など、学校を核としたスポーツやレクリエーション活動を可能な限り実施することができた。

(2) 障害者スポーツ・レクリエーション競技・種目別検討委員会

- ・ 各特別支援学校の特色に応じて取り組んでいるスポーツ活動について、障害者スポーツ指導員等の参画のもと検討委員会を開催し、活動方針や取組内容、スケジュール等の計画立案、運営等について確認を行うことができた。
- ・ 各競技・種目別に委員会を開催しながら取組を進めており、また、定期的に各競技間の情報交換を行うなど、組織的な体制整備及び相互連携の一層の充実を図ることができた。
- ・ 各競技・種目別検討委員会が実施する取組や交流大会等のイベントについては、

県内の新型コロナウイルス感染症拡大状況等を踏まえ、事務局と連携を図りながら、開催や実施の判断や会場や実施する上での感染症対策など協議を行い、安全に実施することができた。

(3) 各特別支援学校への障害者スポーツ指導員等の派遣

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策により、各特別支援学校の教育活動全体について制限があったため、予定していた活動を全て実施することはできなかったが、地域の状況を踏まえ、安全に実施できる取組については、可能な限り実施することができた。実施できた取組みにおいては、障害者スポーツ指導員等の参画により、部活動やレクリエーション等の指導内容の工夫・改善につながり、教員の指導や生徒の活動の幅が増えるなど、活動が充実してきている。

また、障害者スポーツ指導員による専門的な指導を交えながら選手の育成を図ることができ、選手の練習への取組や大会参加に向けた意欲の向上につながっている。

【FID バasketボール練習会・交流大会】



概要

県内の多くの特別支援学校で取組が進んでいるFIDバスケットボールについて、本県で新型コロナウイルスの感染拡大の落ち着いた8月に、特別支援学校の生徒、卒業生が参加する交流大会を開催し、11月にも2回目の交流大会を開催した。この交流大会には県内6校の特別支援学校の選手、卒業生が参加し、既に特別支援学校を拠点としたスポーツクラブを設立している学校のほか、チーム設立に向けた取組が進めている学校が参加するなど、各学校においてスポーツクラブ設立に向けた取組が進められている。

また、交流大会で県内選手が集まった機会をとらえ、障がい者スポーツ指導員による練習会も併せて開催し、選手の競技力向上に向けた取組を実施することができた。



【トップアスリートによるスポーツ教室】



概 要

トップアスリートによるスポーツ体験について、ラグビーワールドカップでの盛り上がりを受け、オリンピック種目でもあるラグビー教室を開催。山口県ラグビー協会の指導員をゲストティーチャーとして招き、中学部生徒を対象としたタグラグビー教室を開催した。当初の計画では、山口県の女子ラグビーチーム「長門ブルーエンジェルス」の選手をゲストティーチャーとして実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、事前に生徒の活動の様子を録画したものを選手たちに見ていただき、当日は選手たちからビデオで生徒たちにメッセージを送っていただいた。



(4) オリパラ教育の推進

【学校全体で取り組むオリパラ教育】



概 要

新型コロナ感染防止対策のため、オリンピック、パラリンピアンとの交流活動について実施できなかったため、県立田布施総合支援学校では、学校全体でオリパラ教育に取り組み、東京オリンピック・パラリンピック開催を契機とした「体力作り」や、寄宿舎生徒を中心に調べ学習による国際理解を深める活動など、コロナ禍でも実施可能な取組を行うことができた。

(5) 交流及び共同学習の実施

【特別支援教育フェスティバル】



概 要

障害者理解を一層深めるため、例年開催している、県内すべての特別支援学校が参加した「特別支援教育フェスティバル」を県内大型ショッピングモールの特設会場で2日間開催。

例年、各特別支援学校における教育活動の紹介や美術作品等の展示、作業学習等で生徒たちが製作した製品の販売を実施していたが、今年度は展示のみで実施。

フェスティバルをとおして、特別支援学校相互の連携、協力を推進するとともに、広く県民に特別支援学校の取組、障害及び障害のある児童生徒への理解の促進を図ることができた。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、年度当初から県内全ての特別支援学校が一斉臨時休業となり、県内の感染拡大が落ち着いた5月下旬に学校が再開された。

各学校において、徐々にではあるが部活動等の活動も再開したものの、すべての活動において安全な活動となるよう制限や対策を講じたしたうえでの実施となり、当初の予定を変更または中止することとなった。

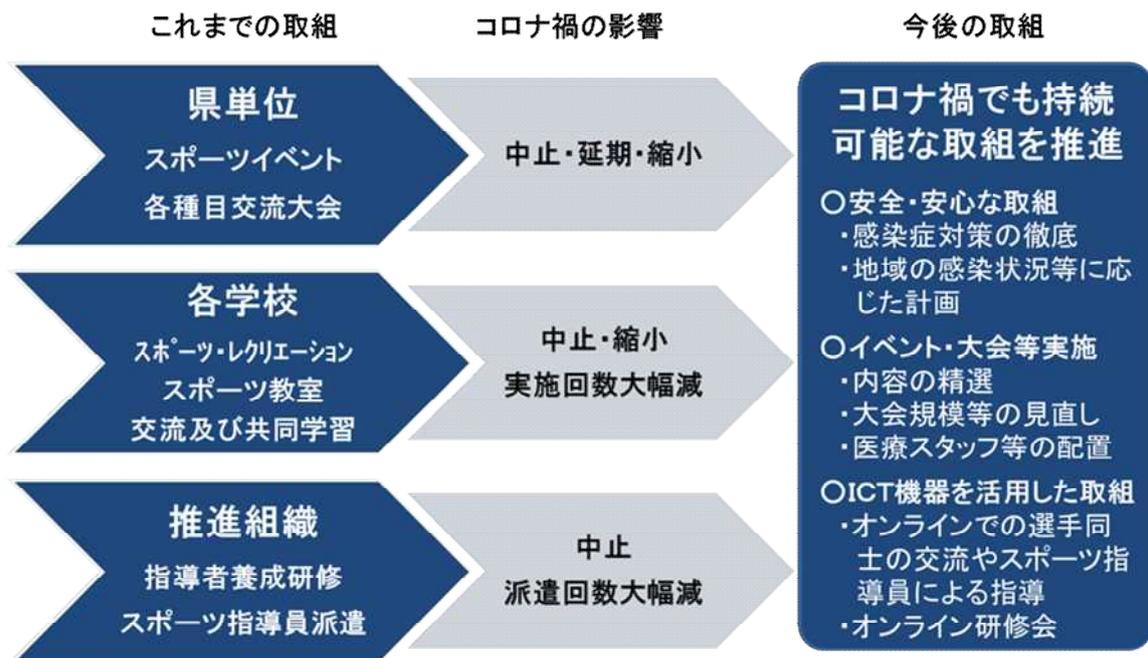
障害者スポーツ指導員等外部人材の派遣や交流大会の実施については、派遣人数や指導員の健康状況の把握、指導や会場における感染症対策の徹底など、安全に実施できるものに限定して実施することができた。

しかしながら、実施にあたり、事前の確認作業や準備、当日の感染症対策の徹底など、多くの時間と人を必要とするため、担当する教員や担当者の負担も大きく、実施を中止せざるを得ない状況もあった。

6 今後の展望等

- ・ コロナ禍において、どうしたら実施できるのか、どのような取組なら安全を確保することができるかなど、事務局、各学校等において試行錯誤しながらの取組となった。

今後、コロナ感染症の状況がすぐに好転し、従来の教育活動やスポーツ活動ができるようになることは困難であると予測され、コロナ禍でも持続可能な取組を計画していく必要がある。



- ・ 今後、持続可能な取組を行う視点として、まずは安心・安全な実施とすること。特に地域の感染状況に応じた計画や、実施の判断について、各学校や各競技に委ねるのではなく、事務局が基本方針を示しながら、学校や障害者スポーツ団体等との一層の連携が必要となる。
 また、コロナ禍におけるイベント、大会等の実施については、これまで連携のなかった医療との連携も必要となってくる。大会等への看護師の派遣など、安全な実施に向けた準備を進めることが必要と考える。
- ・ 本県ではG I G Aスクール構想の実現に向け、すべての学校において高速インターネットなどI C T環境の整備、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校生徒にも一人一台端末の整備が進んでおり、これらを有効に活用し、コロナ禍でも安全に実施可能な取組を推進していく必要がある。
- ・ モデル校において、児童生徒及び卒業生を中心に、スポーツやレクリエーションを楽しむことができる場が形成されつつある。モデル校での取組や好事例を県内の特別支援学校に周知するなど、より多くの学校でスポーツやレクリエーションを行う機会の拡充を図っていく。